

令和8年度

運営に関する計画

年初計画

大阪市立大江小学校

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

1 学校運営の中期目標

現状と課題

本校は、明治7年の創立以来、150年を超える歴史と伝統を有し、地域に支えられながら教育活動を展開してきた。児童は概して規範意識が高く、落ち着いて学習に取り組む姿が見られるなど、学習や生活の基盤は安定している。一方で、令和7年度の最終評価においては、各取組は一定の成果を上げているものの、目標にわずかに届かない状況が見られ、取組の継続性や再現性、組織的な推進体制に課題が明らかとなった。特に、自尊感情の育成や不登校対応、情報モラル教育等においては、個々の実践にとどまる傾向があり、年間を通した系統的な取組や校内での共有・蓄積が求められている。

また、本校はこれまで国語科を中心に「話す・聞く・話し合う」力の育成に取り組んできたが、その成果をより実生活や社会に生きて働く力へと発展させていくことが必要である。そのため、現在は特別活動の研究を通して、合意形成や意思決定など、より実践的な力の育成をめざしている。さらに、多様化が進み、将来の予測が困難な現代社会においては、自ら課題を見出し、他者と協働しながら解決していく力の育成が一層重要となる。これらの課題を踏まえ、これまでの取組を基盤としつつ、教育活動の質の向上と組織的な実践の確立を図っていく必要がある。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を95%以上にする。
- 小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を4年連続で増加させる。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
- 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。

【学びを支える教育環境の充実】

- 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。
- 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を大阪市の平均以下にする。
- 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

中期目標の達成に向けた年度目標 (全市共通目標を含む)

※運営に関する計画再掲

【安全・安心な教育の推進】

学校園の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。
- ② パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。
- ③ 小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。
- ④ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。
 ※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握
 ※改善とは次の状態の場合をいう。(複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。)
 1 出席人数の増 (学校内外でICT等を活用した学習活動をする事による出席認定を含む)
 2 ICTの活用による、b本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。
 3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

学校園の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
【R7: 4年-0.05 5年+0.08 6年+0.02】
- ② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より0.01ポイント向上させる。
【R7: 4年+0.09 5年+0.08 6年-0.02】
- ③ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。**R7:89.1%**
- ④ 小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。
R7:91%

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (総括シート)

【学びを支える教育環境の充実】

学校園の年度目標

- ① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友達と共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。 **(R7:69.5%)**
- ② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を大阪市の平均以下にする。
教員一人当たり平均時間外勤務時間 (令和7年11月時点)
大江小 (累計) … 23時間23分
大阪市 (累計) … 23時間04分
- ③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。 **(R7:82.9%)**

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|--|------|
| <p>【安全・安心な教育の推進】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学校に行くのは楽しいと思いますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を93%以上にする。</p> <p>② パソコンや携帯電話・スマートフォン等に関する調査における「保護者との間にスマートフォン等（インターネットを通じたゲーム・動画・SNS等の利用（パソコンや携帯電話・タブレット端末を含む））を利用する時のルールはありますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を80%以上にする。</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「いろいろな国や地域の文化や言葉のちがいを大切にし、困ったことや問題を解決するなどして、つながりを深めることができますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。</p> <p>④ 年度末の校内調査において、前年不登校児童の改善の割合を増加させる。</p> <p>※前年度不登校であった児童のうち不登校の状態が解消された、または不登校状態であっても次の1～3に該当しているなど、総合的な判断により不登校の状態が改善されたとする人数を把握</p> <p>※改善とは、次の状態の場合をいう。（複数に該当する場合は、最も顕著な項目を選択する。）</p> <p>1 出席人数の増（学校内外でICT等を活用した学習活動を行うことによる出席認定を含む）</p> <p>2 ICTの活用による、本人・保護者と学校がつながる回数が増えた。</p> <p>3 養護教諭、スクールカウンセラー、教育支援センターなどが学校内外の専門的な指導・相談につながるようになった。</p> | |
| <p>年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標</p> | 進捗状況 |
| <p>取組内容①【2 豊かな心の育成】</p> <p>外国籍の児童の増加傾向にある。そこで、学年やクラスの実態にあった取組をし、外国籍の児童が過ごしやすい雰囲気を作成する。</p> | |
| <p>指標 校内の児童アンケートで、「ちがう国や地域のことばや暮らし、文化のちがいを大切にして、こまったときに声をかけたり、いっしょに考えたりすることができていますか。」において、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。</p> | |
| <p>取組内容②【1 安全・安心な教育環境の実現】</p> <p>不登校傾向が見られる児童の情報を共有し、その子に合った温かな対応を行っていく。また、保護者やSC、SSWなど関係諸機関とも連携し、一人も取り残すことなく、すべての児童とつながっていくこと、心を通わせていくことに努める。また、大江タイムを使って、各学級が温かい雰囲気になるような取り組みを定期的に行う。</p> | |
| <p>指標 校内の児童アンケートで、「元気に楽しく学校へ通っている。」において、肯定的な回答をする児童の割合を93%以上にする。</p> | |

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

| | |
|----------------------|-------------------------|
| 評価基準 A: 目標を上回って達成した | B: 目標どおりに達成した |
| C: 取り組んだが目標を達成できなかった | D: ほとんど取り組めず目標も達成できなかった |

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【未来を切り拓く学力・体力の向上】</p> <p>① 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 【R7: 4年-0.05 5年+0.08 6年+0.02】</p> <p>② 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 【R7: 4年+0.09 5年+0.08 6年-0.02】</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。R7:89.1%</p> <p>④ 小学校学力経年調査における「運動(体を動かす遊びを含む)やスポーツをすることは好きですか。」に対して、肯定的な回答をする児童の割合を90%以上にする。 R7:91%</p> | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【4 誰一人取り残さない学力の向上】 言語活動を中心に学習を構成し、目的に応じて読む力・書く力・伝える力を育成する。個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実する手立てを工夫する。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における、国語の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 【R7: 4年-0.05 5年+0.08 6年+0.02】</p> | |
| <p>取組内容②【4 誰一人取り残さない学力の向上】 個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実させ、基礎的な計算技能の確実な定着を図るとともに、考え方を表現する問題解決の過程を重視した授業を推進する。</p> <p>指標 小学校学力経年調査における、算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。 【R7: 4年+0.09 5年+0.08 6年-0.02】</p> | |
| <p>取組内容③【4 誰一人取り残さない学力の向上】 全教科を通して、対話的な学習を取り入れ、考えを表現する機会を増やす。また、児童が多様な他者と協働的に学ぶ指導の手立てや、考えの変容や深まりを実感できる振り返りを工夫する。</p> <p>指標 校内の児童アンケートにおいて「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を90%以上にする。R7:89.1%</p> | |

取組内容④【5 健やかな体の育成】

体力・運動能力向上に向け、児童が進んで運動に取り組めるよう、楽しい体育授業づくりや運動環境整備を進める。各学年の体育学習で使用したワークシートを回収・活用する。

指標 校内の児童アンケートにおいて「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか。」において肯定的な回答をする児童の割合を91%以上にする。

R7:90.7%

年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

大阪市立大江小学校 令和8年度 運営に関する計画・自己評価 (目標別シート)

評価基準 A:目標を上回って達成した B:目標どおりに達成した
C:取り組んだが目標を達成できなかった D:ほとんど取り組めず目標も達成できなかった

| 年度目標 | 達成状況 |
|---|------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> <p>① 小学校学力経年調査における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(R7:69.5%)</p> <p>② 教員の1か月あたりの平均時間外勤務時間を大阪市の平均以下にする。 教員一人当たり平均時間外勤務時間(令和7年11月時点) 大江小(累計)…23時間23分 大阪市(累計)…23時間04分</p> <p>③ 小学校学力経年調査における「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(R7:82.9%)</p> | |

| 年度目標の達成に向けた取組内容、取組の進捗状況を測る指標 | 進捗状況 |
|---|------|
| <p>取組内容①【6 教育DXの推進】</p> <p>年間3回以上のICT研修を通じて、教職員の操作スキルと活用イメージを共通理解する。各学年の発達段階に応じた協働学習支援ツールの活用場面(意見集約や比較検討など)を授業に組み込み、日常化を図る。</p> | |
| <p>指標 児童アンケート(3~6年)における「学習者用端末を活用して、自分の考えや意見を伝えたり、友だちと共有したり比べたりしていますか。」に対して、肯定的に回答する児童の割合を70%以上にする。(R7:69.5%)</p> | |
| <p>取組内容②【7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】</p> <p>「ゆとりの日」を月1回確実に実施し、定時退勤を推奨する。また、「学研の日」をゆとりの日として運用し、18時一斉退勤に向けた校内業務の効率化と相互の積極的な声掛けを推進する。</p> | |
| <p>指標 時間外勤務実績45時間を超えない教職員の割合を75%以上にする。(R7:67.65%、R6:76.5%)</p> | |

※裏面に記入欄あり

| | |
|---|--|
| <p>取組内容③【8 生涯学習の支援】 図書室・学級文庫の環境整備、及び「図書の時間」の質的向上を図る。読み聞かせやブックトーク等、本に親しむ機会を意図的に設定する。</p> | |
| <p>指標 児童アンケートにおける「読書は好きですか。」に対して肯定的に回答する児童の割合を86%以上にする。(R7:85.5%)</p> | |

| 年度目標の達成状況や取組の進捗状況の結果と分析 |
|-------------------------------|
| <p>【学びを支える教育環境の充実】</p> |